

目的:統計モデルの局所情報や情報幾何的性質を手がかりとして、モデル同定にまつわる困難を解消し、好ましい統計的性質を持つ推定の枠組みを構築する

問題:データがどのような確率分布 $\bar{q}_\theta(x)$ から生成されているか?

難しい点: $\bar{q}_\theta(x) = \frac{q_\theta(x)}{Z_\theta}$ が確率であることを要請するための

正規化項 $Z_\theta = \sum_x q_\theta(x)$ (or $\int_x q_\theta(x) dx$) の計算が大変

(例: $x \in \{+1, -1\}^p$ の時, Z_θ の計算に 2^p 回の計算が必要)

提案法:拡張モデル+同次ダイバージェンス+経験分布による局所化
→正規化項 Z_θ の計算を回避+漸近有効性

For $\alpha, \alpha' (\alpha \neq \alpha')$, $\hat{\theta} = \operatorname{argmin}_\theta D_\gamma(\tilde{r}_{u,\alpha,\theta}, \tilde{r}_{u,\alpha',\theta})$

• 拡張モデル: $q_\theta(x) \left(\sum_x q_\theta(x) \neq 1 \right)$

• 同次ダイバージェンス: $D_\gamma(f, g) = 0 \Leftrightarrow f \propto g$

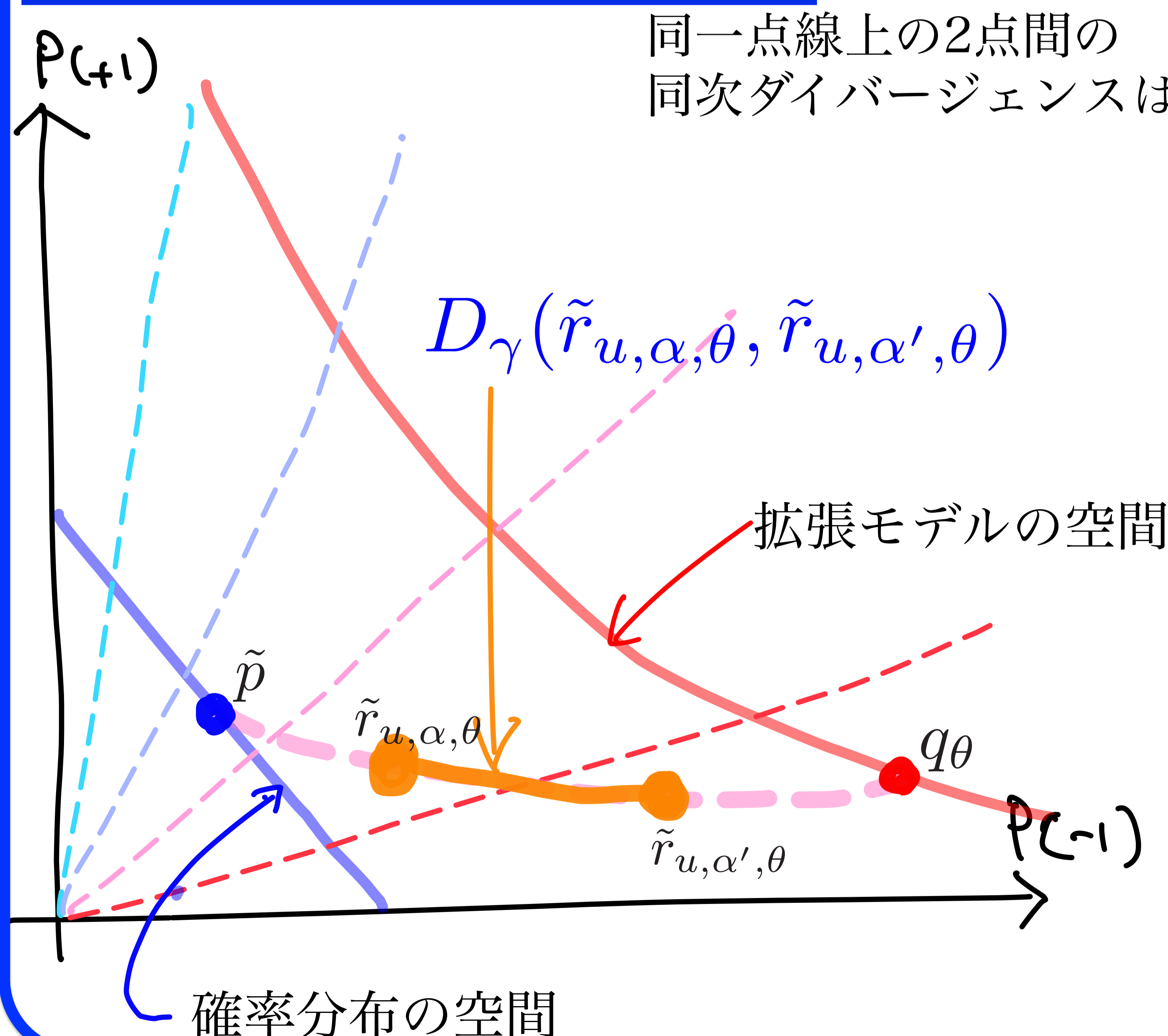
• 経験分布による局所化: u を単調な変形関数, $\xi = u^{-1}$ として

$$\tilde{r}_{u,\alpha,\theta}(x) = \tilde{p}(x) u \left(\alpha \xi(1) + (1 - \alpha) \xi \left(\frac{q_\theta(x)}{\tilde{p}(x)} \right) \right)$$

2つの確率分布 $\tilde{r}_{u,1,\theta}(x) = \tilde{p}(x)$ と $\tilde{r}_{u,0,\theta}(x) = q_\theta(x)$ を変形 u で接続

$x \in \{+1, -1\}$ の時の概念図

推定量の性質



• 正規化項の計算が不要

• 少ないコストで計算可能

• 漸近分布: 変形 u によらず

$$\sqrt{n}(\hat{\theta} - \theta_0) \sim N(0, I(\theta_0)^{-1})$$

$I(\theta_0)$: フィッシャー情報量行列

クラメール・ラオの下限(誤差の下限)を達成!